

アートプロジェクトの事業評価に関する研究

A Study on Evaluations of Art Projects.

○川村洋右¹、堀切梨奈子²、佐藤慎也²

Yosuke Kawamura¹, Rinako Horikiri², Shinya Satoh²

Analyzed The project evaluation method of subjects of this study from the perspective of project evaluation structure and questionnaire based on the literature search, and make a comparison. By exhaustive analysis of the project evaluation method of Art Project, to reveal the art project and the relationship of the project evaluation, which aims to clarify cautions and improvements of project evaluation in today.

1. 序論

1.1 研究背景

今後の社会は、少子高齢化などの影響から縮退の一途を辿ることが予測される。縮退する社会においては、これまでの新奇性を孕んだ都市形成ではなく、地域の資源を活用し、固有文化を振興することが重要になってくるのではないだろうか。

近年、地域の文化や伝統を活かした文化政策が注目を集め、各地で様々な取り組みが行われている。これらの文化政策は、まちづくりにおいて重要な役割を果たしている。地域振興を目的のひとつとしたアートプロジェクトは、その代表的な例であろう。一方で、アートプロジェクトの事業評価は、事業毎に様々な形態で行われており、客観性に欠けているといえる。また事業評価の多くが、助成金を得ることを目的として作成されており、一般人の視点から捉えることは難しい。一方で、一般向けに公開している報告書においては、芸術の専門性に欠けているといえるであろう。今日、多様化するアートプロジェクトに対する事業評価において、様々な立場から解釈できる、客観性をもった事業評価が要求されているのではないだろうか。

1.2 研究目的

アートプロジェクトの事業評価方法を網羅的に分析することで、アートプロジェクトと事業評価の関係性を明らかにし、今日における事業評価の留意点や改善点を明らかにすることを目的とする。

1.3 研究方法

アートプロジェクトの記録資料のアーカイブ整備事業を行っている P+ARCHIVE^{注1}が作成した、検索サイトをもとに、事業評価が行われており、且つ評価に関する資料が公開されている 40 事例のアートプロ

ジェクトを対象とする。研究対象の事業評価方法を、文献調査をもとに事業評価構成・アンケート項目の視点で分析し、比較を行う。

2. 事業評価に関する報告書の分析

2.1 事業評価構成

対象事例の報告書^{注2}より、事業評価項目を事業概要・定量的な評価・定性的な評価の 3 つにグループ分けし（表 1）、事業評価構成を把握する。各グループの割合を明らかにし、各事業評価の構成を把握し、統計をとった（図 1）。

表 1. 事業評価項目のグループ分け

事業評価項目	詳細
事業概要	事業概要 / 作品紹介 / 協賛 / 連携事業コラム / 広報 / アクセス
定量的な評価	来場者数計測 / チケット販売数計測 / 事業収支計測 / パブリシティ効果
定性的な評価	アンケート / ヒアリング / インタビュー

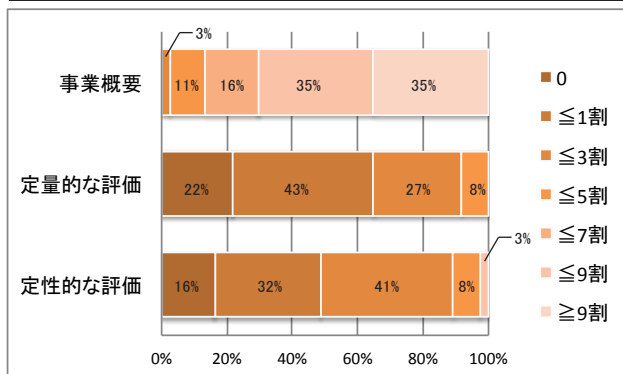


図 1. 事業評価項目の割合

報告書構成において、事業概要に関する項目が 7 割以上の割合を占める事例が 70% である。多くの事業評価に関する報告書は、作品紹介などの事業概要が占めており、評価に関する項目は少ない。

1: 日大理工・院（前）・建築 2: 日大理工・教員・建築

定量的な評価に関する項目は、来場者数やチケット販売数などをグラフに簡易にまとめた事例が多く、報告書全体に対して1割以下の事例が65%と多くを占めている。一方、1~3割の事例が27%であり、来場者数を前回開催と比較した事例や、他のアートプロジェクトと比較して評価している事例があった。また3~5割の事例は、会場毎、展示毎に定量的な評価を行っている。

定性的評価に関する項目は、全体の1~3割を占める事例が41%と最も多く、アンケート調査における自由表記項目の結果を、抜粋している事例が多く見られた。

2.2 事業評価におけるアンケートの分析

2. アンケート対象者

各事業評価で行われたアンケートについて、対象者を分類する(図2)。来場者のみを対象として行われている事例が73%と多くを占めており、地域住民と来場者を分類している事例は12%と少ない。また、芸術系専門家に対するアンケートは3%と少ないが、ヒアリングやインタビューを行っている事例は多かった。

2.2.2 アンケート項目の分析

各事業評価で行われたアンケートの項目を10項目に分類し、分析する(表2)。

図3は、各事例のアンケート項目を分類し、項目数から割合を把握したものである。属性、経緯、自由回答・総合的な評価の3項目を除いた7項目は、5割以上の事例が0%である。地域に関する項目や、開催効果に関する項目においては、7割以上の事例が評価していない。地域と密接な関係が要求されるアートプロジェクトにおいては、改善点と言えるであろう。

また、アートプロジェクトの拠点や会場に関する項目も少なく、建築的な視点もまた欠如していると言える。

3. 結論

以上より、アートプロジェクトの事業評価は事例毎に大きく異なることがわかった。地域とアートプロジェクトは密接な関係にあり、事業評価においても、地域的な視点が必要とされるのではないかと考えられる。

4. 今後の展望

アンケート項目をレーダーチャート図で表し(図4)、各事業評価の特性を把握し、アートプロジェクトと事業評価の関係性を明らかにする。そしてレーダーチャート図を比較し、アートプロジェクトにおける事業評価の傾向を把握し、留意点や改善点を明らかにする。

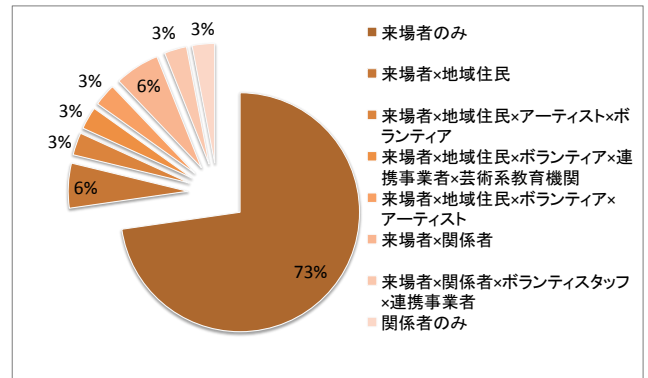


図2. アンケート対象者の割合

表2. アンケート項目グループ分け

アンケート項目	詳細
属性	年齢 / 性別 / 居住地 / 職業 / 趣味 / 日常 / 交通
経緯	きっかけ / 来場理由
地域について	地域の賑わい / 地域活性化 / 土産物
運営	スタッフ / 値段 / マナー / 開催時期
開催効果	自身の変化 / 周囲の変化
次回開催への期待	次回開催に対する意見
作品・展示について	作品 / 展示 / イベント / ツアー / トークショー
自由回答・総合的な内容	自由記述 / 感想 / 総合的な意見 / 改善点
美術への関心・関わり方	美術への関心度 / 美術館訪問頻度 / 芸術との関わり
会場・拠点について	会場 / 拠点 / 来場予定地

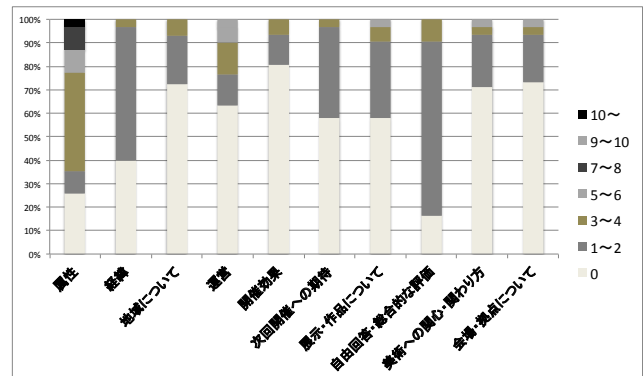


図3. 来場者に対するアンケート項目の割合

アンケート項目			
性別	居住地	展示への関心の対象	刻の記憶グッズ
年齢	告知手段	龍野への関心の対象	スタンプ利用について
職業	イベントについて	土産物	
属性	経緯	展示・作品	地域について
			運営



図4. 龍野アートプロジェクト アンケート項目分析

【注釈】
 注1) P+ARCHIVE 検索サイト <http://www.art-society.com/parchive/>
 注2) 定量的な評価、定性的な評価を含んだ報告がなされている資料。

【参考文献】

- 1) 長尾芽生・平野雄一郎・佐藤慎也：墨東エリアにおける文化活動拠点の評価に関する研究，日本建築学会学術講演梗概集，pp.889-892，2014.9
- 2) M・J・エプスタイン・K・ユーザス・鴉尾雅隆監修・鴨崎養泰・松本裕：社会的インパクトとは何か 社会変革のための投資・評価・事業戦略ガイド，英治出版株式会社，2015.10
- 3) 熊倉純子，監修 菊池巧児・長津結一郎：アートプロジェクト 芸術と共創する社会，水曜社，2014.1